

もうすぐ選挙権 Vol.8

【一票を投じることの意味】

だれでも

声なき声を聴くチカラ

～「点字投票」って知ってますか？

あわせて
見たい
読みたい



佐賀新聞チャンネル
「盲字校生、選挙の投票方法学ぶ」動画



議会だよりNo.94
「声で届ける議会だより
に込めた思い」



2015年から18歳選挙権が始まりましたが、2019年に行われた統一地方選寄居町議会議員選挙は「無投票」で終わりました。その時の中学1年生が「初めての選挙」となる4年後の統一地方選に臨むまで、議会と中学生と一緒に考えるページとして始まったコラム「もうすぐ選挙権」。8回目を迎える今回は、少し視点を変えて、目の不自由な方の投票方法の一つ「点字投票」を取り上げます。

取材にご協力いただいたのは視覚に障害のある金子修さん。「一人の声」をあげていくことの大切さについて聴きました。

点字投票は点字を使用している視覚障害の方が、人の手を借りることなく、専用の点字投票用紙で投票。投票所には点字盤が備えられています。「寄居町に移住して28年。選挙は欠かさず点字投票を行っています。初期のころは選挙係の方の準備に時間がかかっていましたが、今ではスムーズに投票できるようになりました。」とのこと。

「転入した当時、市街地の道路標識が狭い道をさらに狭めている所や、放置自転車などの改善をお願いしたときに、すぐ対応してくれてホッとした覚えがあります」と言う。

金子さんは現在、社会教育団体を立ち上げ、様々な催しを企画。障害者と健常者とが共に生きることのできる社会を求めて活動を推し進めています。「自分の声は本当に少数の意見。点字ブロックひと

つをとっても、あなたのためだけの道じゃないと言われてしまうのではないかと、思う時もあるが「障害者や高齢者が安心して歩ける道は、誰にとっても優しい道だということ。大ごとではなく、あるものを活かして便利になればいい」と語る。日本にいる障害のある人の割合は人口の7.6%(*1)一方で、障害のある議員の割合は全議員の0.1%(*2)とされています。2019年に重度の障害がある国会議員が当選しましたが、議場のバリアフリー対応から始めなくてはいけないという現状です。満18歳になれば平等の権利として「選挙権」が保障されていて、誰もが選挙に参加できますが、これからの社会はこの「多様な声」をいかに政治に生かしていけるかが鍵となります。

誰も取り残さない社会となるよう、町政へ多様な声を。その「声なき声」を聴く議会のチカラが問われています。



これが点字器。点字盤に用紙をセットして、点筆で打っていきます。投票所に掲示されている候補者名や投票用紙も点字になっています。



自分にとって選挙は当たり前のこと。誰もが住みやすい町になればいいと思います。これからは障害者も様々なIT技術を使ってコミュニケーションを取れる時代。町のWi-Fi環境も整備してほしいですね。

金子修さん(鉢形)

今号のキーワード

視点を改めて

峯岸議長のChairman's Column

清流は淀まず



「ゆく河の流れは絶えずして、

しかももとの水にあらず」

鴨長明『方丈記』冒頭の一節である。栄枯盛衰、諸行無常は人の世の常だが、大切なことは変化に抗うことではなく、変化を楽しみつつ対応することだ。

出生率は低下し将来を担う若者が激減し、空き家問題は深刻化して、いずれ町すらも使い捨てられると聞くと暗澹たる気持ちになるが、果たしてそうだろうか。

見方を変えれば、1人当たりが使えるお金・時間・空間・エネルギーなどが格段に増えるのではないだろうか。それを可能にする技術の進歩にもめざましいものがある。

寄居町を見ても、政治・経済、文化など、さまざまな分野で新しい流れが求められている。その気になれば、誰にでも、活躍の場はかつての何倍も広がっている。

大変な時代に生まれたと思うか、面白い時代に巡り会えたと思うかは、あなた次第。

——清流は淀まず

「聞く」と「聴く」の違い

議会事務局のまなざし

今号に登場している町民の方は39名。誌面掲載へのご協力、ありがとうございます。町民の皆さんの「声」を直接聴くことが大切なのは、議員も役場の職員も同じ。行政に携わる者として、改めて生の「声」を聴くことの大切さを、取材を通して勉強させていただきました。

これからも、『お元気ですか寄居議会です』を通じて、皆さんの「声」、届けていきます！



聞くのではなく、耳を傾けて聴く

(*1) 出典：「令和元年版 障害者白書」内閣府。(*2) 内閣府調査に基づき試算。

議会広報広聴特別委員会

- 委員長 鈴木詠子
- 委員 権田孝史・保泉周平
- 副委員長 大北久勝・大澤博
- 笠原則夫 原口孝・田母神節子

発行責任者(議長) 峯岸克明

100号長寿に乾杯 EDITORS NOTE.100

なんとって100号。ヒトがたどり着くことを思うと祝杯。記念号に関わる縁に祝杯。では、寄居にはちょうど100歳になるヒトは？ なんと女性のみ、4名(4/1現在)。長寿に祝杯。(大北)



高齢者や視覚の弱い方にも配慮したユニバーサルデザインフォントを使用
議会だより関連動画
議会HPで公開中!

今号の表紙「輝く若者、寄居町」

「議会だより」もおかげさまで100号。過去を振り返るのではなく、あくまで未来を見つめて。これからの寄居に思いを込めた1ページ。多くの若者が輝く環境づくりも議会の使命。



お元気ですか 寄居議会です

「動画でたどる! 100号のあしあと」
毎号の表紙づくりに思いを込めて24年。これからも町の様子や町民の笑顔が表紙を飾り、思わずページをめくりたいような紙面づくりに全力!

